

KASHIMA 男女共同参画 フォトコンテスト 受賞作品介绍

自分らしく生きることや男女が助け合うことの大切さに気付いてもらうとともに、男性の家事・育児参画への関心を高めることを目的として、フォトコンテストを開催しました。各部門の受賞作品を掲載します。

市長賞



タイトル: 「夏のかき氷」

(応募者コメント)

今年の夏は自粛生活も緩んで去年よりもたくさん遊べたね！大好きな鹿嶋神宮にいかにかき氷を食べるのがこの夏の定番コースでした。

①「みんなが主役★わたしがみつけた輝くひと」部門



優秀賞

「繋いでいく」

子どもはどんどん成長していく。これから彼らが歩んで創っていく未来が、少しでも明るく希望で満ちたものになるように、まだまだ自分も頑張りたい。



入選

「小若」

3年前は1歳になりたてだったからずっと抱っこされていた息子が、キラキラした目で嬉しそうにはじめて山車を曳く姿には感慨深いものがある。

③「イクメン見～つけ！」部門



優秀賞

「この顔が見たくて」

娘の気持ちよさそうな顔、嬉しそうな顔が見たくて仕事終わりで頑張ってくれているパパ。沐浴はパパの役割です。



入選

「全員、撃沈。」

よく遊んだ後は、誰でもこうなりますよね～っ笑笑

②「男の絆・助け合い」部門



優秀賞

「名シェフ？ maybe」

ママいわく、「味も愛情も三ツ星レストランのシェフたち」になるそうです。



入選

「お婆ちゃん久しぶり」

久しぶりに会った孫とお婆ちゃん。嬉しくてハグを。

④「THE 俺流家事」部門



優秀賞

「スマホがあれば、俺だって！」

体調が悪い時「今日は俺が作るから！休んで！」と料理をした事のない夫。「これがあれば俺でも作れる！」と息巻いてくれました！感謝！



入選

「初めての料理はギョーザ」

3歳になった末っ子長男は料理をやる気まんまん。上手に焼けたギョーザを得意気に見せてくれました。食後は率先して洗いのまでしてくれます。

たようせい 多様性のあるまちに

鹿嶋市は、令和4年度からスタートした第四次鹿嶋市総合計画において、基本政策の一つとして「多様性を理解し共に生きる」を掲げ、ダイバーシティ社会の実現を施策の一つとしています。

POINT

たようせい
多様性のあるまち
ってどんなまち??

ねんれい せいべつ こくせきとう かしま
年齢、性別、国籍等にかかわらず、鹿嶋に
くらすひとたちのいろいろな生き方を認め合い、
たが たす
お互いに助けあえるまち。

ダイバーシティ社会って??

たようせい じゅよう ひとり たいせつ
多様性を受容し、一人ひとりを大切にする
しゃかい
社会のこと。

※第四次鹿嶋市総合計画より



PICK UP

かしまし
鹿嶋市は、「いばらきダイバーシティ宣言」に登録しています！

かしまし せんげん とりく ないよう
鹿嶋市の宣言（取組み内容）

「いばらきダイバーシティ宣言」とは？

性別等にかかわらず、一人ひとりが尊重され、誰もが個々の能力を発揮できる社会の実現に取り組むため、茨城県が令和3年度に県内の経済団体・業界団体とともに発表した宣言のこと。趣旨に賛同し、宣言する企業・事業所・団体等を随時募集している。

1. ダイバーシティ意識の醸成

ねんれい せいべつ こくせき しょう う む ひとり
年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりが社会の対等なパートナーとして、それぞれが持つ個性やその人らしさを発揮し、だれもが活躍できる環境をつくります。

2. 働きやすい環境整備、多様な働き方の促進

はたら かんきょうせいび たよう はたら かつ そくしん
それぞれがもつ「価値観」「考え方」「ライフスタイル」「能力」「経験」などの違いを認めて尊重し合い、仕事と生活のバランスに配慮した働きやすい環境整備をすすめ、多様な働き方を促進します。

3. 新たな価値を創出できる人材の育成

あら かつ そしゅつ じんざい いくせい
さまざまな機会を通じて、多様性を生かした地域づくりに向けた意識啓発をすすめるとともに、自らの意志で自分らしい生き方を選択し、新たな価値を創出できる人材を育成することで、多様性に富んだ豊かで活力あふれる「ダイバーシティかしま」の実現を目指します。

中学生によるまちづくり政策提案発表会

「SDGsを自分事と捉えて持続可能な社会の実現に向けた方法を考える学習」を進めている鹿野中学生が、令和4年12月21日(水)に鹿嶋市教育委員会主催により実施した「中学生によるまちづくり政策提案発表会」において、学習の成果を発表しました。その中で、「ジェンダー平等」をテーマに学習を進めた班の提案を紹介します。



はっぴょうないよう
【発表内容】
「ジェンダー^{びょうどう}平等^{びょうどう}について
エルジービーティーキュー
～LGBTQ～」

はっぴょうしゅ
【発表者】
かのちゅうがっこうねんくみせいとめい
鹿野中学校1年A組の生徒4名

【テーマ】
アウア ホームタウン カシマ
「Our Hometown "KASHIMA"」



ていあん 提案①

① 小学校4年生以上の生徒を対象に動画の視聴やスライドなどの作成をし、共有することでLGBTQを教育に取り入れることができる。小さい頃からジェンダーなどについて学んでいけば、偏見や差別が減ると考えるため、学校でそのような学習機会を設けてはどうか？

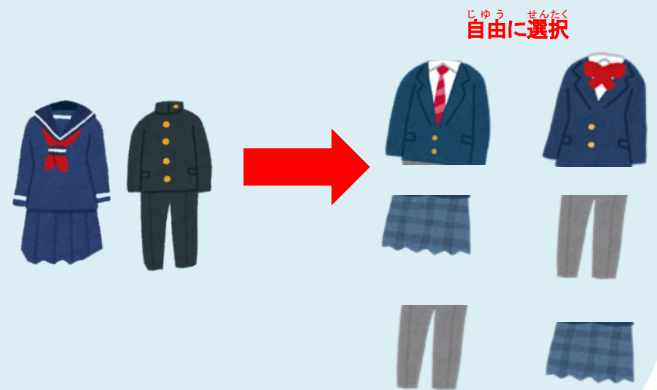
CHECK

LGBTQって??

- L…レズビアン (女性同性愛者)
- G…ゲイ (男性同性愛者)
- B…バイセクシャル (両性愛者)
- T…トランスジェンダー (身体の性別に違和感をもつ人)
- Q…クエスチョニング (自分自身の性の在り方を決めたくない人、迷っている人、わからない人など。)

ていあん 提案②

② セーラー服や学ランは見た目で性別がわかってしまい、スカートやズボンをはきたい人が穿くことが難しい。ブレザーは男女問わずズボンやスカートを穿いていても違和感がない。また、リボン・ネクタイを選択制にすることで自由に制服を着ることができるため、そのような制服を取り入れてはどうか？



Q

女性支援室から質問しました！



1

普段の学校生活の中で、LGBTQの方に対する配慮が必要だと感じていることはありますか？

2

現在ジェンダーレス制服について、PTA役員さんとの話し合いを重ねているようですが、PTA役員さんからご意見をいただいたら、次はどういったことを実行する予定ですか？

A

回答

「女らしく」とか「男なんだから」などということ、言われたり、言ったりしている場面がある。普段から「言葉」にもっと気を付けていかなければならないと思う！

今は、鹿野中の中だけで話し合いを行っているので、これを鹿嶋市全体に広げて話し合っていきたい！

発表者のみなさん、問題意識を持って現状を調査し、学習を進めてきたことが十分に伝わる発表でした。



見つけた！

キラキラ人

東日本大震災などのこれまでの災害では、「避難所での女性と男性のニーズの違いが配慮されない」といった課題が浮き彫りとなり、地域の防災力向上のために、防災の現場における女性の参画が求められています。

鹿嶋市では平成29年に女性消防団を発足させ、現在5名の団員が活動を行っています。今回は、団員の1人である 田本 まゆ子 さんにお話を伺いました。

◆ 鹿嶋市女性消防団員 ^{たもと} 田本 まゆ子さん (住友生命 水戸支社 鹿島支部 所長)



「人の役に立ちたい」という思いが原動力！！

私は、もともと人のために動くことが好きで、日頃から誰かの役に立ちたいと考えていました。そんなある日、ひょんな事から知り合った女性消防団員に声をかけてもらい、仕事と子育てに加えての活動ということで、自分にできるのか迷いもありましたが、まずは平成30年の夏に、茨城県と鹿嶋市の合同で行われた総合合同防災訓練を見学に行きました。そこで、女性消防団がAEDの講習会を行っているのを見て、「私もやらなくては」という使命感が芽生え、入団して4年半になります。

仕事は保険会社に勤務しているのですが、保険も防災も普段は役に立つことはないけれど、いざというときに助けてくれる存在であることは同じです。仕事と消防団の活動が繋がっている気がして、日々、人のために働けることにやりがいを感じています。



女性消防団の主な活動内容はありますか？



防災に関する啓発などが主な活動になります。女性消防団も訓練をしたり、火事の際に現場で消火活動を行うと思われがちですが、実際はAEDの使い方を指導したり、イベントで広報活動をする役割を担っています。



令和5年1月7日
鹿嶋市消防団出初式で



活動で心がけていることはありますか？



災害は自分の身に降りかかるまでは他人事になりがちです。そうではなく、普段から自分事として備えてほしい。そして自分たちの活動がそのきっかけを作ればよいと思っています。また、災害がおきてしまった際には、避難所などを回り、避難者の方に寄り添って女性にしか話せないことなどを聞き取り、その声を災害対策本部等に届けるような活動が必要だと考えています。



最近の活動で印象に残っていることはありますか？



令和4年11月に徳島県で行われた全国女性消防団員活性化大会に参加してきました。コロナの影響で3年振りの開催となり、私自身も2度目の参加でしたが、「まだまだ歴史の浅い鹿嶋市女性消防団がより発展していくために、他の団体がどんな活動をしているのか知りたい」との思いで、鹿行代表として出席しました。展示会では、団員が作成した、災害が起きたときに落ち着いて行動するためのカードや、百円ショップなどでも揃えられる防災グッズが紹介されていて、「私たちにできることはまだまだたくさんある！」と刺激を受けました。



△女性消防団員の皆さんと(右から2番目)



最後に一言お願いします。



鹿嶋市女性消防団はまだまだメンバーも少なく、市民の方にも浸透していないと思いますが、やはり防災に女性の力は必要だと感じています。興味をもってくださった方、是非、私たちと一緒に活動しましょう！！

編集後記

キラキラ人田本さんのお話から、災害でより多くの人を助ける為の活動には、女性参画の必要性がひしひしと伝わってきました。それぞれの特性を活かし、お互いの役割を認め合う社会作りが出来ていくって素敵ですね。

(男女共同参画推進委員 S・M)

編集・発行 鹿嶋市男女共同参画推進委員会(女性支援室)
〒314-8655 茨城県鹿嶋市大字平井1187番地1
TEL:0299-82-2911